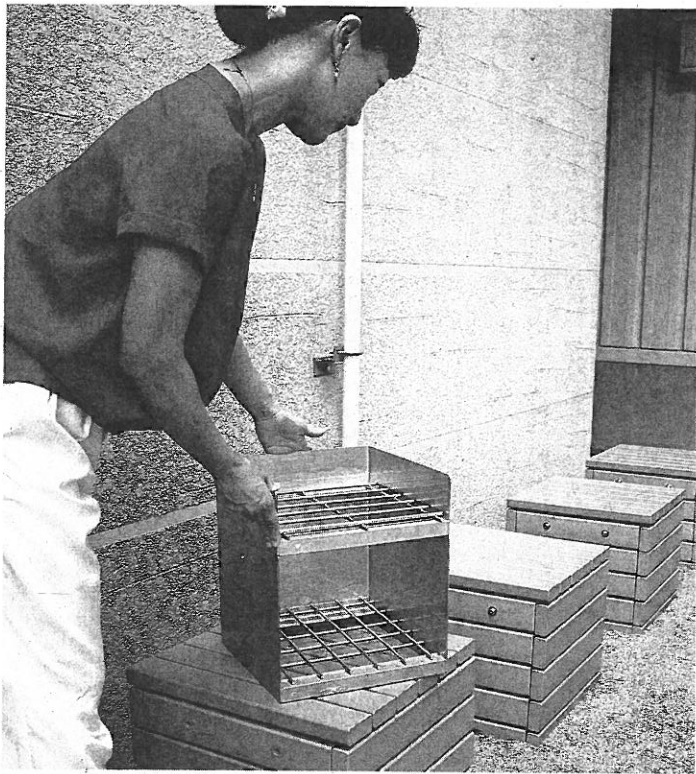


## 災害へ備え 住民主体

防災の日



高層マンションに設置されている、被災時に簡易のかまどになるベンチ(大阪市浪速区)

南海トラフ地震など巨大災害による甚大な被害が予想される中、住民らが自ら命を守る「自助」や地域で助け合う「共助」で備える取り組みが各地で広まってきた。1日は「防災の日」。関係者は「『お役所任せ』でなく、地域の防災力を自分たちで高めたい」と意気込む。(1面参照)

### 避難所は高層マンション

#### 大阪・浪速区

「免震性が高いからとばセントラルプラザリバ安心せず、防災の心構えーガーデン」(大阪市浪速区)の管理組合理事長、タワーマンション「なん 鎌田笑理子さん(45)は

力を含める。25階建てで約550世帯が暮らす同マンションは、区が指定する「津波避難ビル」。有事の際には近隣住民や通行人ら約1100人を受け入れる

予定だ。緊急地震速報が出た場合、屋上のスปีカーが近隣に危険を知らせ、共用部分を開放する。3階の一室を使った備蓄倉庫には乾パンや飲料水のほか、川などの水を飲料水にする造水機や自家発電装置、マンホールと直結できる簡易トイレなど最新式の設備が並ぶ。

昨年は区の担当者を招き、防災マップなどを使った防災講習会も開いた。備蓄倉庫の見学会や防災用具の使い方を学ぶ機会も設ける。参加者からは「用具を実際に触ってみることで防災への意識が高まった」などの声が上がったという。